

1908年(昭和41年) 宜野湾間切から宜野湾村となり、1962年に宜野湾村から現在の宜野湾市になりました。「ねたての都市(まち) ぎのわん」をキャッチフレーズに明るい未来へ向けた様々な取り組みが行われています。2022年に市制施行60周年を迎える宜野湾市のこれまでの歴史を写真で振り返りながらご紹介します。



1987年 (昭和62年)

ついに完成!
宜野湾史に残る2大スポット
宜野湾マリーナ・
沖縄コンベンションセンター落成

ライブやスポーツ大会など様々な用途に利用されている沖縄コンベンションセンターと、多くの船が停泊する宜野湾マリーナがこの年、完成しました。

2017年 (平成29年)

変化する周辺地域
普天間飛行場
東側沿いの土地返還式

7月31日宜野湾市に所在する普天間飛行場東側沿いの土地の返還が実現。返還地を利用し、市道11号線を開通することで交通渋滞の緩和に期待が高まります。



2020年 (令和2年)

さらなる賑わい!
住みたいまちへ!
市の人口10万人達成

2007年に人口9万人を達成後、約13年の月日を経て、ついに人口10万人を達成。これから発展する西普天間地域の活性化によりさらなる人口増加に期待。

2007年 (平成19年)

暮らしやすさで増える笑顔
市の人口9万人達成

市制から45年。「ねたての都市(まち) ぎのわん」としてキャッチフレーズを掲げてきた市の人口が遂に9万人を達成しました。



2018年 (平成30年)

宜野湾に繋がる夢の道
西海岸道路開通

2010年に工事を開始した浦添市西洲と、宜野湾市宇地泊を結ぶ西海岸関連道路が3月18日に開通。主要施設へのアクセス向上や、国道58号が渋滞緩和されました。



2021年 (令和3年)

42年越しに達成!
次なる宜野湾に繋がる道
宜野湾市道11号開通

1979年度に着手後、約42年の時を経て普天間飛行場東側にある「市道宜野湾11号」が、3月28日に全線供用開始。開通により道路網が充実し便利になりました。